

2013 年度

授業についての 満足度調査

ASSESSMENT OF STUDENT SATISFACTION

The Student Satisfaction Survey is a tool to improve the quality of students life and their learning through measurement of their satisfaction with courses they have taken.

Shjonawate Gakuen Junior College

「授業についての満足度調査」について

2013年度の「授業についての満足度調査」は例年と同じく年初1月に保育学科、ライフデザイン総合学科、および総合福祉コース1、2年次生を対象に実施した。調査手段は主に携帯電話、補完的に学内のパソコンとした。調査結果についても、2010年度～2012年度と同じ体裁でとりまとめを行った。

従来通り3年度分のデータを比較する方式としているが、本年度は2011年度、2012年度、2013年度入学生のデータを掲載し、入学年度別での比較、また同一入学年度でも1年次と2年次間の比較が行えるようにしている。繰り返しとはなるが、本満足度調査は個々の授業毎の満足度を調査するものではなく、学科・コース毎に授業全体についての満足度を調査するもので、これと合わせて「自分自身についての授業取り組みについての自己評価」、「学習成果についての自己評価」も調査対象とし、最終的に学生生活全体に関する満足度も問う形としている。

2010年度から始めた視覚的に結果を把握できるグラフ方式を踏襲し、上記の3項目ごとにFD委員会のコメントを付し、その上で各学科長・コース長のコメントを掲載しているので、本報告書を是非ご一読頂きたい。尚、本満足度調査への学生の回答状況(回答率)の推移表を参考までに本報告書の末尾に掲載しているので併せご覧頂きたい。

また、調査結果については、費用や手間も勘案し、冊子の配布に替えてファイル形式での配信(UNIPAでの掲示)とさせて頂くこととした。悪しからずご了承頂きたい。

FD 委員長
奥田 純

調査目的

1. 授業への満足度を測定する。
2. 学生の授業への取り組みについて自己評価を測定する。
3. 学習の成果について満足度を評定する。

以上の3点を調査することにより、各学科と学年において、満足度が充足できている点とできていない点を明確化し、翌年度の授業改善への一助とする。

調査期間

2014年1月中旬

調査回答者数	2013年度入学生	2012年度入学生
保育学科	55	56
ライフデザイン総合学科	31	26
介護福祉学科・「総合福祉コース」	12	18

注: 2012年度より「総合福祉コース」が開設され、2013年度生・2012年度生は同コースに、
2011年度生は介護福祉学科に所属する。

調査項目

授業への満足度を測定する7項目、学生の授業への取り組み姿勢を測定する5項目、学習の成果について学生の満足度を測定する4項目を使用した。
評定は、“満足～不満”、“そう思う～そう思わない”の5段階で評定を求めた(調査項目は、結果を参照)。

調査方法

必修授業終了後や試験終了後の時間を利用して集団で実施した。またライフデザイン総合学科の2年生に関しては、時間割上全員が一斉に集まる機会がなかったため、受講者数が多い授業を選んで実施した。さらにUNIPAを通じて全学生にアンケートへの協力を求めた。尚、アンケートは従来と同じく無記名で実施した。

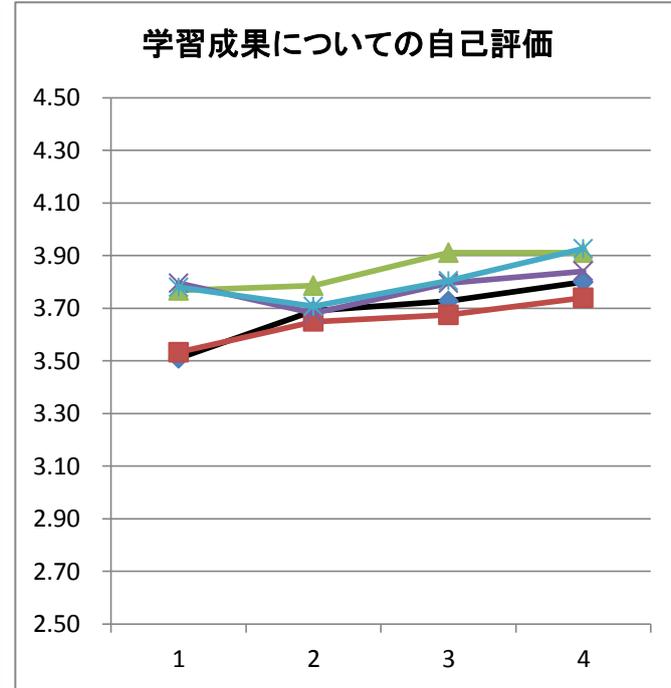
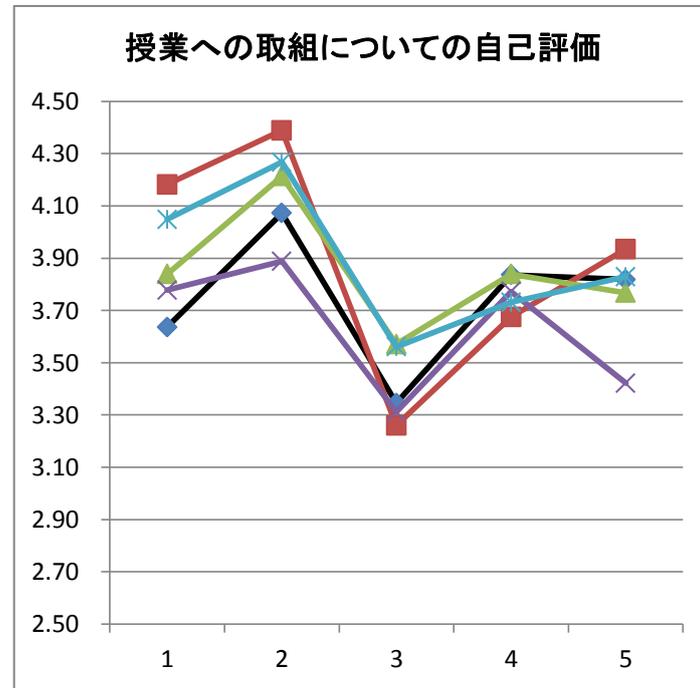
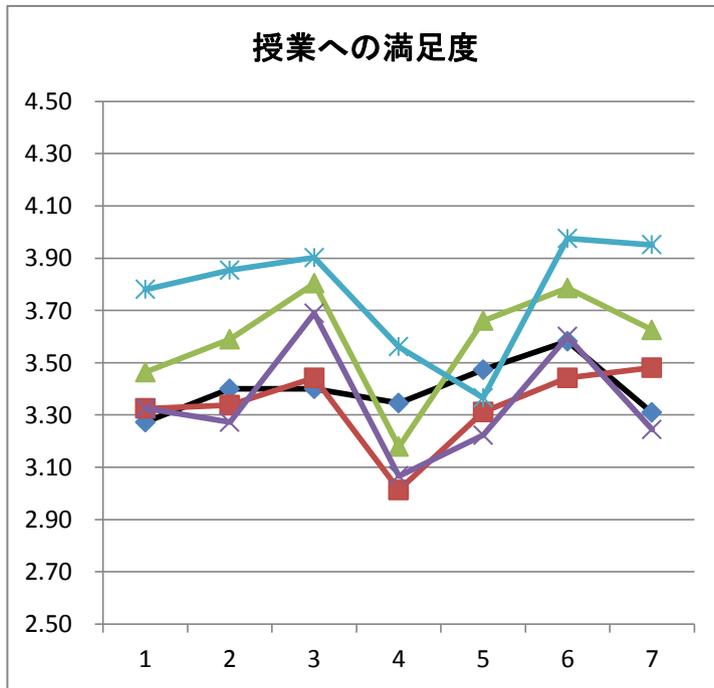
結果のデータ処理

“満足～不満”、“そう思う～そう思わない”をそれぞれ“5～1”と得点化し、各項目の評定値の平均値を学科および学年ごとに算出した。

保育学科 満足度調査結果		2013年度入学生	2012年度入学生		2011年度入学生	
		1年次	1年次	2年次	1年次	2年次
調査対象者数		55	77	56	44	41
項目番号	本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度
1	授業内容のわかりやすさ	3.27	3.32	3.46	3.33	3.78
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.40	3.34	3.59	3.27	3.85
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.40	3.44	3.80	3.69	3.90
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.35	3.01	3.18	3.07	3.56
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	3.47	3.31	3.66	3.22	3.37
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.58	3.44	3.79	3.60	3.98
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.31	3.48	3.63	3.24	3.95
平均		3.40	3.34	3.59	3.35	3.77
項目番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期				
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度
1	授業には、よく出席した	3.64	4.18	3.84	3.78	4.05
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.07	4.39	4.21	3.89	4.27
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.35	3.26	3.57	3.31	3.56
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.84	3.68	3.84	3.77	3.73
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.82	3.94	3.77	3.42	3.83
平均		3.74	3.89	3.85	3.63	3.89
項目番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期				
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.51	3.53	3.77	3.80	3.78
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.69	3.65	3.79	3.68	3.71
3	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.73	3.68	3.91	3.80	3.80
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.80	3.74	3.91	3.84	3.93
平均		3.68	3.65	3.84	3.78	3.80
項目番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度
1	総合的判断	3.36	3.35	3.73	3.44	3.80

数値は各項目とも平均値。

学科長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)	
1. 本学での授業に関する満足度	各年度の7項目全ての結果が3点台で推移している。つまり、授業の関する満足度は「可もなく不可もなく」といった評価と言える。私たち教員は、この結果に満足するのではなく、より学生が満足する授業を展開する努力と工夫が求められる。そして、数値が1年次から2年次への評価に関しては、2011年度及び2012年度入学生双方が向上している。上がり幅の中でも、#3「教員とのコミュニケーション」の数値が最も大きく伸びている。これは本学科の特色でもある学生との距離感が短く、親身になっての対応ができてきている現れとも言えるのではなからうか。また、#4「人為的環境」評価の数値は全項目の中でも最も低い評価となっている。この点は、学習意欲を削いでしまう私語や授業態度を教員は絶対に見逃さず、適切に対処しなければならぬ。
2. 授業への取り組み姿勢に対する自己評価	一般的に1年次と2年次の自己評価を比較するとほとんどの場合、自己評価は向上しているが、今回2012年度生の評価は下降している。とくに、下げ幅が大きかったのは、#1「授業出席」の項目が大きく下降している。2年次は、卒業や資格取得に向けての学年であり、同時に就職活動に取り組んでいく学年でもある。それに関わらず、「欠席」が増加する原因がどこにあるのかを検証すべきである。授業関連なのか、就職活動関連なのか、それとも私生活関連なのか可能な限り確認すべきである。#2の「遅刻」に関しては、今年度(2013年度)より、公共交通機関の延着証明提出以外は、一切の「遅刻」は認めない方針を打ち出した。2013年度生は「遅刻」の項目数値が最も高く、それなりの意識をもって授業に臨んでいたであろう。「出席」と同時に「遅刻」をしないための方策を検討しなければならない。
3. 学習成果に対する自己評価	2011年度入学生に関しては、1・2年次間の明確な伸びはなく、むしろ#1「教養や知性」については専門家としての知識・技術が集大成を迎える2年次で、自己評価の数値が下がることに対する振り返りが必要となる。考えられるひとつの理由としては、2011年度生は「新カリキュラム」がスタートし、2年次の時間割編成の際、有効に就職活動ができるようにと空白時間を設けたことが結果として裏目に出してしまったかも知れない。つまり、就職先が決まるまでは有効活用できていたが、内定した以降の時間の使い方を誤り生活リズムを狂わせて、授業の「欠席」が多くなった学生が散見されたからである。今後は、同じ失敗を繰り返さないように学生の動きを考慮した対応をしていかなければならない。
4. 学生生活に関する総合的判断	総合的判断の推移は2011・2012年度生共に、1年次から2年次の流れのなかで、「0.3」ポイント強上昇している。満足度は向上したが、2年次の示す数値に満足するのではなく、学生がこれまで以上に「満足」できる学生生活を送れるように、私たち教員は常に「学生中心」で厳しさのなかに温もりのある教育を追求していかなければならない。



◆ 2013年度入学生1年次
 ■ 2012年度入学生1年次
 ▲ 2012年度入学生2年次
 ✕ 2011年度入学生1年次
 ◆ 2011年度入学生2年次

・2012年度生は1年次と比べ2年次にすべての項目で満足度が上がっている。
 ・1年次より2年次にかけて満足度が向上しているのは2011年度生で顕著に見られたが、2012年度生については上がり幅は2011年度生よりは低かった。
 ・2013年度生は#1～#3(授業内容、質、コミュニケーション)については2011・2012年度生1年次と似かよった傾向を示したが、#4(授業の人為的環境)や#5(物理的環境)では両年度1年次より評価

・2012年度生は2年次になって#3(授業中の集中)、#4(時間外の課題への取組)以外で自己評価が下降した。
 ・2011年度生では1年次から2年次にかけて自己評価は向上していたのと反対の動きとなった。
 ・2013年度生は出欠(含む遅刻)、については2012年度生1年次に比べ自己評価は低い、授業への集中や試験への取組については同レベルの自己評価をしている。

・学習成果についての自己評価は左記の授業への満足度、授業への自己の取り組みというカテゴリーに比べて、項目間の差が小さく、総じて評価が高いのが大きな特徴でこの傾向は変わっていない。
 ・2012年度生はすべての項目で2年次の方が1年次より学習成果についての自己評価が上がった。
 ・2013年度生は学習成果については2012年度生1年次とほぼ同水準であった。

総合的判断
 ・2012年度生は1年次から2年次になって評価が3.35から3.73へとかなり大幅に上昇した。2011年度生では3.44から3.80であったので、2年次になって評価が良くなる傾向が続いたことみなる。2013年度生の総合評価は3.36で2012年度生1年次とほぼ同じ水準であった。

ライフデザイン総合学科 満足度調査結果		2013年度入学生		2012年度入学生		2011年度入学生	
		1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
調査対象者数		31	40	26	59	41	

学科長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)

項目番号	本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度
1	授業内容のわかりやすさ	3.45	3.48	3.77	3.55	4.49
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.39	3.48	3.85	3.66	4.46
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.42	3.48	3.81	3.80	4.39
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.39	3.40	3.73	3.57	4.17
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	2.87	3.10	3.50	3.35	3.90
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.48	3.18	3.69	3.35	3.85
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.19	3.55	3.50	3.70	4.20
平均		3.31	3.38	3.69	3.57	4.21

◆「授業への満足度」
項目別で顕著なのは本年度も「授業の物理的環境」で、2013年度生の評価は3.0を下回る不評ぶりである。入学年次の違いと、総じて1年次に比べ2年次は改善する傾向が見られるので、2013年度生も2年次には好転するかもしれない。しかし、施設、設備の問題は今後さらに評価を悪化させる可能性も高い。2013年度生からキャリア教育フィールドを新設しキャリア関連の授業を拡充した結果か、「キャリア計画に対する授業内容の有効性」について2013年度生からやや高目の評価を得た。一方、学生数の減少に伴い、一部科目で開講条件を充足できない履修登録状況も発生し、開講科目が総じて減少する傾向にあり、2012年度生、2013年度生ともに評価が低くなっている。

項目番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期				
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度
1	授業には、よく出席した	3.77	3.78	3.62	3.90	4.12
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.06	4.03	4.00	4.07	4.22
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.65	3.58	3.65	3.80	4.12
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.84	3.43	3.58	3.83	3.95
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.74	3.45	3.73	3.72	4.12
平均		3.81	3.65	4.10	3.86	4.11

◆「授業への取組についての自己評価」
出席、遅刻、授業中の態度についてはどの入学年度も同じ傾向が見られるが、時間外の課題、試験勉強への取り組みは、2013年度生については自己評価が2012年度生より高い。

◆「学習成果についての自己評価」
2012年度生は2年次になって「教養や知性が身についた」とことについて評価がかなり上昇し、専門的能力や人間的な成長も1年次より改善している。ただ、社会人は今一つである。2013年度生の自己評価は2012年度生の1年次のときとほぼ同じ水準でよく似かよっている。

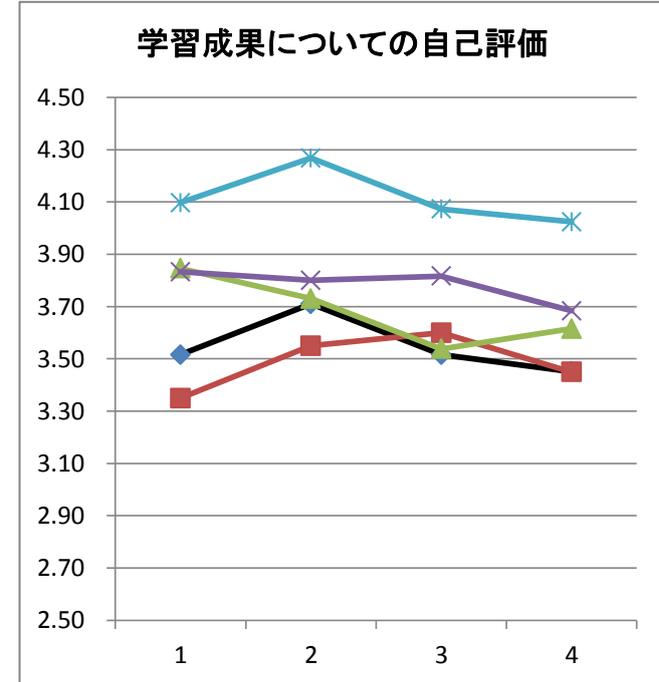
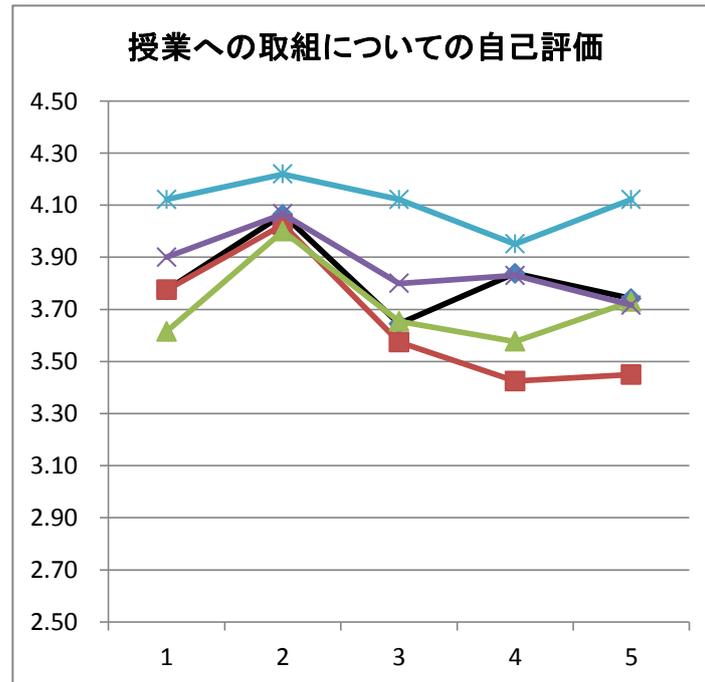
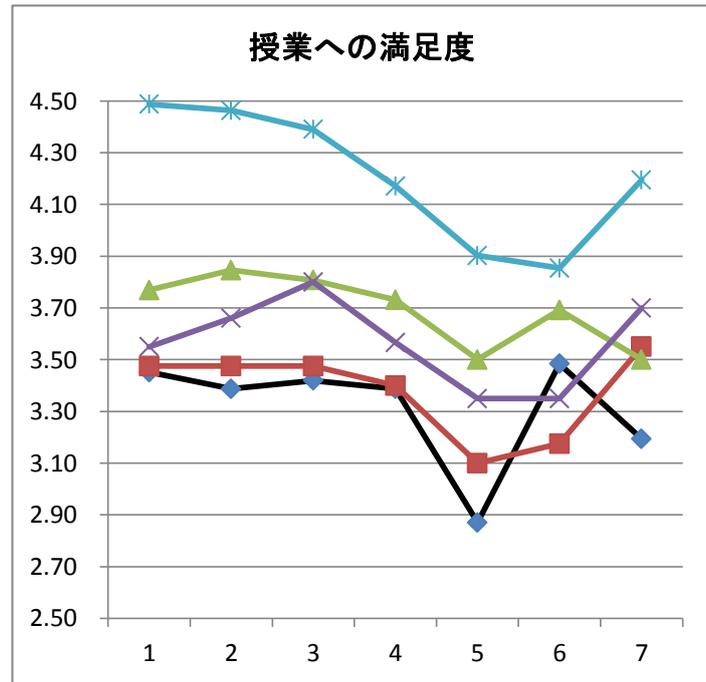
項目番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期				
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.52	3.35	3.85	3.83	4.10
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.71	3.55	3.73	3.80	4.27
3	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.52	3.60	3.54	3.82	4.07
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.45	3.45	3.62	3.68	4.02
平均		3.55	3.49	3.68	3.78	4.12

◆「総合的判断」
1年次生での全体的な学生生活への満足度は2012年度生、2013年度生共にほぼ同じと理解しうる。2012年度生は2年次になって、満足度がやや上昇しているのは喜ばしい。今回のデータでは示されていないが、2010年度生の2年次の満足度は2012年度生のそれと同じ水準であり、2011年度生が年次として特別であったことがうかがえる。

◆今後の改善について
毎年のことになるが、教室や空調、トイレ(一部は改善されたが)、廊下、階段、建物内の壁の塗装状態は、建物自体の老朽化とともに劣化しており、学生の満足度評価に反映されている。改善が強く望まれる。開講科目の数の問題は、開講されている科目の中身を充実し、学生への魅力を高めることで補足することが求められる。キャリア関連の授業の充実も大きな課題であり、就職も展望すれば、社会人能力が身についたと実感できる学生を一人でも多く作り出したい。

項目番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期				
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度
1	総合的判断	3.45	3.48	3.62	3.82	4.22

数値は各項目とも平均値。



◆ 2013年度入学生1年次
 ■ 2012年度入学生1年次
 ▲ 2012年度入学生2年次
 × 2011年度入学生1年次
 ★ 2011年度入学生2年次

・2012年度生は2年次になって#7(カリキュラムの充実)以外の項目で満足度が上昇した。ただ、2011年度生と比べると上昇度はゆるやかであった。
 ・2013年度生は#1～#3(授業の内容、質、教員とのコミュニケーション)は2012年度生1年次と同水準の満足度を示す結果であったが、#5(授業の物理的環境、カリキュラムの充実度)は低く、#6(キャリアへの有効性)は高い数字を示した。

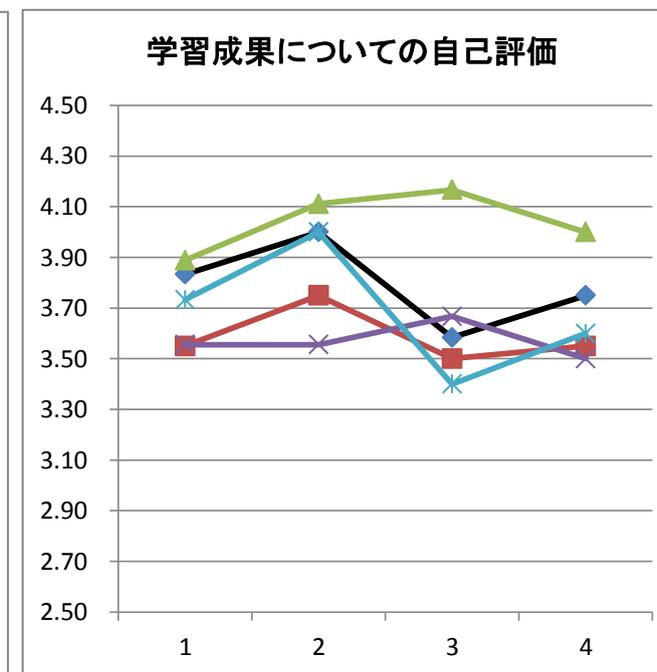
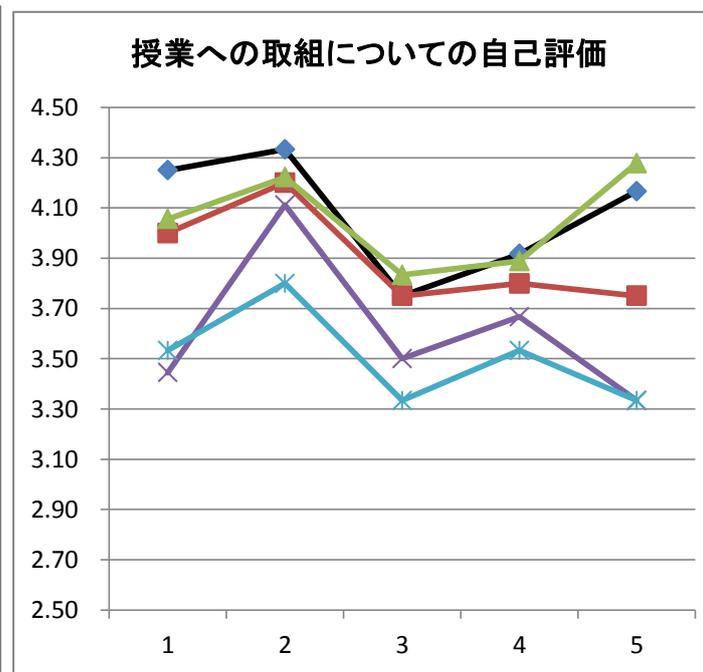
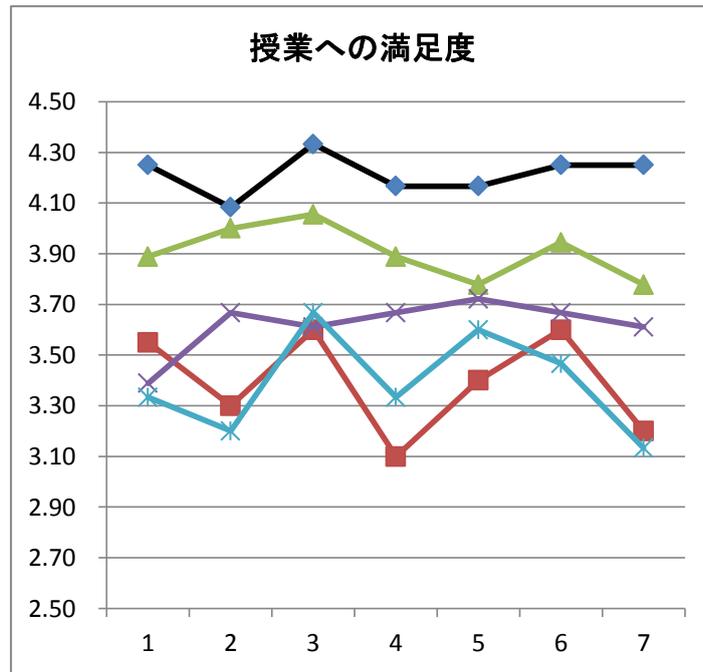
・2012年度生は1年次に比べて自己評価では試験勉強への取り組みについて一定の上昇は見られるが、他は大きな変化は見られない。
 ・2013年度生は2012年度生1年次に比べて自己評価は授業への集中、試験勉強への取り組みに関して上回っている。他の項目は同じ水準である。

・2012年度生は2年次になって教養・知性面での評価が向上、また専門的な知識、人間的な成長でも数字が上昇している。一方コミュニケーションやマナーについては評価は若干下がっている。
 ・2013年度生は#1(教養が身に着いた)、#2(専門的能力が身に着いた)では2012年度入学生1年次を若干上回っているが、他は同じ水準である。

総合的判断
 ・2012年度生は総合的な満足度で2年次は1年次より3.48から3.62へと向上したが、水準の高かった2011年度生の1年次の3.82より低い。2013年度生については満足度は2012年度生1年次を若干下回る3.45という水準であった。

介護福祉学科・「総合福祉コース」満足度調査結果		2013年度入学生		2012年度入学生		2011年度入学生		
		1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	
調査対象者数		12	20	18	18	15		
項目番号 本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)		実施時期						
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度		
1	授業内容のわかりやすさ	4.25	3.55	3.89	3.39	3.33	<p>(授業に関する満足度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年度入学生は、2年次にはすべての項目で満足度が大幅に上昇した。2011年度生が2年次になって満足度が低下したのと好対照となっている。 ・2013年度生はいずれの項目においても満足度が高く(4.1～4.3のバンド内)、高水準だった2012年度生の2年次よりさらに高い満足度を示している。特に、教員とのコミュニケーションが4.33であり、日常のこまめな教員の対応に満足を感じてきているようである。 <p>(授業に対する学生の自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年度入学生は、自己評価においても2年次にすべての項目で満足度が上昇した。顕著だったのは、試験勉強への取り組みであり、5.3ポイントも上昇した。2011年度生が2年次になって満足度が低下したのとは好対照である。 ・2013年度入学生は満足度高水準だった2012年度生の2年次よりさらに高い満足度を示しているが、居眠りや私語で授業に集中しなかった項目を3.75と低く自己評価をしている点は正直な回答であり、この結果を踏まえ次年度には改善を求めたい。 <p>(学習成果に対する自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年度入学生はこのカテゴリーでも1年次から2年次になって大幅な上昇が見られる。教養から専門知識、社会人としてのマナー、人間的な成長まで全項目で学習成果が得られたと答え、満足度が高い。 ・2013年度入学生については、在学1年を経過したところであり、学びの中盤であることから、教養や専門知識についてはかなり高い評価をしているものの、社会人力、人間的な成長を自覚するには至らず、これまでの年度生の平均的な評価に近い。今後、授業や学外実習体験を重ねる中で、学習成果満足度が上昇するよう指導しなければならない。 <p>(総合評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的には2012年度入学生は1年次と2年次とで4.00という同じ高水準で、変化がなかった。 ・2013年度生は2012年度生よりさらに高い4.08という満足度で、カテゴリー別での高い評価傾向と軌を一にしている。 	
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	4.08	3.30	4.00	3.67	3.20		
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	4.33	3.60	4.06	3.61	3.67		
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	4.17	3.10	3.89	3.67	3.33		
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	4.17	3.40	3.78	3.72	3.60		
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	4.25	3.60	3.94	3.67	3.47		
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	4.25	3.20	3.78	3.61	3.13		
平均		4.21	3.39	3.90	3.62	3.39		
項目番号 本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)		実施時期						
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度		
1	授業には、よく出席した	4.25	4.00	4.06	3.44	3.53		
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.33	4.20	4.22	4.11	3.80		
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.75	3.75	3.83	3.50	3.33		
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.92	3.80	3.89	3.67	3.53		
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	4.17	3.75	4.28	3.33	3.33		
平均		4.08	3.90	4.06	3.61	3.51		
項目番号 あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)		実施時期						
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度		
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.83	3.55	3.89	3.56	3.73		
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	4.00	3.75	4.11	3.56	4.00		
3	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.58	3.50	4.17	3.67	3.40		
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.75	3.55	4.00	3.50	3.60		
平均		3.79	3.59	4.04	3.57	3.68		
項目番号 あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)		実施時期						
		2013年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度		
1	総合的判断	4.08	4.00	4.00	3.89	3.73		

数値は各項目とも平均値。



◆ 2013年度入学生1年次
 ■ 2012年度入学生1年次
 ▲ 2012年度入学生2年次
 × 2011年度入学生1年次
 ◆ 2011年度入学生2年次

・2012年度生はすべての項目で満足度が大幅に上昇した。2011年度生が2年次になって満足度が低下したのと好対照となっている。
 ・2013年度生は満足度の水準としても高い2012年度生2年次よりさらに高い満足度を示している。どの項目も4.1から4.3のバンド内に収まり押しなべて良好である。

・2012年度生は、自己評価の点では1年次から2年次になってもほぼ同水準であったが、#5(試験勉強への取り組み)については大幅に上昇した。
 ・2013年度生は2012年度生の2年次の自己評価とほぼ同じ評価を示しているが、出席、遅刻について2013年度生より評価が高い。
 ・2011年度生は1年次のときから後の2年度生より低い自己評価で、2年次にはさらに評価が低下したのと

・2012年度生はこのカテゴリでも1年次から2年次になって大幅な上昇が見られる。教養から専門知識、社会人としてのマナー、人間的な成長まで全項目で良好な評価となっている。
 ・2013年度生は教養や専門知識についてはかなり高い評価をしているが、社会人力、人間的な成長ではこれまでの年度生の平均的な評価に近い。

総合的判断
 ・総合的には2012年度生は1年次と2年次とで4.00という同じ水準で、変化がなかった。ただ、2011年度生と比べると評価は良い。2013年度生は2012年度生よりさらに高い4.08という評価で、カテゴリ別での高い評価傾向と軌を一にしている。

満足度調査回答状況

学科・コース	入学年度	入学者数	調査時期(各年度1月)							
			2010年度		2011年度		2012年度		2013年度	
			回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
保育	2009	94	74	78.7%						
	2010	85	68	80.0%	62	72.9%				
	2011	98			44	44.9%	41	41.8%		
	2012	122					77	63.1%	56	45.9%
	2013	99							55	55.6%
ライフ	2009	102	64	62.7%						
	2010	107	79	73.8%	34	31.8%				
	2011	92			59	64.1%	41	44.6%		
	2012	71					40	56.3%	26	36.6%
	2013	55							31	56.4%
介護・総合福祉	2009	16	14	87.5%						
	2010	33	28	84.8%	18	54.5%				
	2011	21			18	85.7%	15	71.4%		
	2012	25					20	80.0%	18	72.0%
	2013	18							12	66.7%

注:回答率は入学年度ごとに調査年度の回答者数を当初の入学者数(調査時期の在学者数はいない)で割り百分率としている。

2013 年度 授業についての満足度調査

©2014 年 3 月

編集	四條畷学園短期大学 FD 委員会
委員長	奥田純
委員	仁平章子 石川肇 鍛冶谷静 北村瑞穂